

2006年5月

2006年度東地区部会

研究講演会のご案内

東地区部会
東地区部会研究部

総会当日の午後、「研究講演会」を開催します。

ネットワーク環境の一般化によって、誰もがデジタル情報を容易に入手できるようになりました。殊に、Google Scholar、Google Print は学術文献・資料に特化した世界規模の検索エンジンですが、このような検索サイトは一面、図書館機能の一部を代行しようとしているようにも見えます。検索の利便性は、到底、図書館の及ぶところではありません。

しかし、検索サイトが図書館に取って代わることはないでしょう。Google が図書館に与える影響、図書館との関わり方等を見ながら、棲み分けを展望したいと思います。

『日本の参考図書』は数十年来図書館員に愛用されてきましたが今回、これのデータベース化が進められています。Web上で検索ができれば、図書館現場で一層役立つと共に、一般の人もこれを参考に調査技能を高めることができると思われます。レファレンス支援ツールのあり方にも関心があります。

これからの大学図書館の方向性を探るとともに、図書館業務を再考するヒントになればと企画しました。

講師は、上記関連テーマについて研究誌に発表されている方と、データベース化研究グループ代表の方です。

フロアのみなさまと活発な議論を交換できれば幸いです。

日時	2006年6月9日(金)	13:45~16:45
場所	鶴見大学 鶴見大学会館	B1階 メインホール
講演	「Googleが図書館に与えるインパクト - Webの進化との考察 - 」 一橋大学総合情報処理センター 助教授 兼宗 進氏 「ハイブリッド環境下におけるレファレンスサービス支援 ツールの開発」 慶應義塾大学文学部 教授 田村 俊作氏	

みなさまのご参加をお待ち申し上げます。